

伊那新校 第5回懇話会までの論点整理

○目指す学校像・育てる生徒像

- ・規模が大きく互いに切磋琢磨できる上伊那地域の普通科教育の拠点校
- ・各生徒の将来の目標につながる様々な大学への進学を目指すことが可能な学びの場
- ・上伊那随一の進学校
- ・各生徒の将来の進路希望や個性に応じた多様な学びが用意された学びの場
- ・3年間で人間の基礎が得られることを主軸においた生徒育成の場
- ・自分の特性や価値を見出せる学校
- ・生徒会活動やクラブ活動等、生徒の活動を保証する学校
- ・将来地域に戻ってくる人物を育てる地域創生及び循環型社会の推進に寄与する学びの場
- ・多様な他者と協働しながら問題を解決していくコミュニケーション能力の育成
- ・基礎学力の習得の上に立ち、探究心を持った生徒の育成
- ・人生100年時代の到来を見据えた地域の医療を支える人材の育成
- ・地域の課題・問題点について考え、それに取組む人材の育成
- ・地域を離れ、外から上伊那地域を見つめた後に、やがては上伊那地域に戻る人材の育成

○学び・カリキュラム

- ・様々な人々と関わりながら、多様な価値観を学び多様な力を身に付けることが可能な学びの場
- ・「この大学のこの先生で学びたい」などの、人と人をつなぐ学び
- ・分野最先端の学びが可能で、将来の研究分野にもつながる学び
- ・国際化時代の中で世界にはばたき幅広い見聞を広めることにつながる学び

○地域連携・コンソーシアム

- ・地域人材を講師とした課外授業や地域資源を活かした探究的な学びの場
- ・多様な人と出会い、社会の人との接点を生み出す学校
- ・地域のプラットフォームと連携した幅広く奥行きのある立体的な学び
- ・地域の企業を理解し、将来の地域の経済を考える学びがある学校
- ・どういった地域をつくりたいか、自分たちに何ができるかを考えられる力を育む場
- ・探究的な学びの源流である総合学習が息づく、義務教育での学びを踏まえ、よりよい人生に結び付けていくステップアップの場
- ・上伊那地域の郷土史をはじめ、地域の成り立ちや魅力等を学ぶことができる学びの場

○学びの環境・その他

- ・「知っている」知識だけでなく、活用・応用し、組み合わせて問題を解決していく資質・能力を基盤とした「使える知識」としての学力論（コンピテンシー・ベース）
- ・社会で必要とされる意欲、感情の自己調整力や問題解決能力、対人関係力を育む場
- ・個々の物事をバラバラに列挙する「網羅する学習」から、一つひとつの物事の奥にあるもの、見方、考え方が見える「看破する学習」を実践する場
- ・国語や英語などの言語や論理的な考え方を身に付け、グローバルな社会、SDGs等海外に目を向ける学び
- ・本物を学ぶことをめざした教科の枠を超えた学びや教室を出た学び
- ・高校の教室だけ、教員と生徒だけ、という枠組みを大きく超えた学校